

インド金融政策（2019年10月）

RBIは5会合連続で政策金利を引き下げ

2019年10月7日

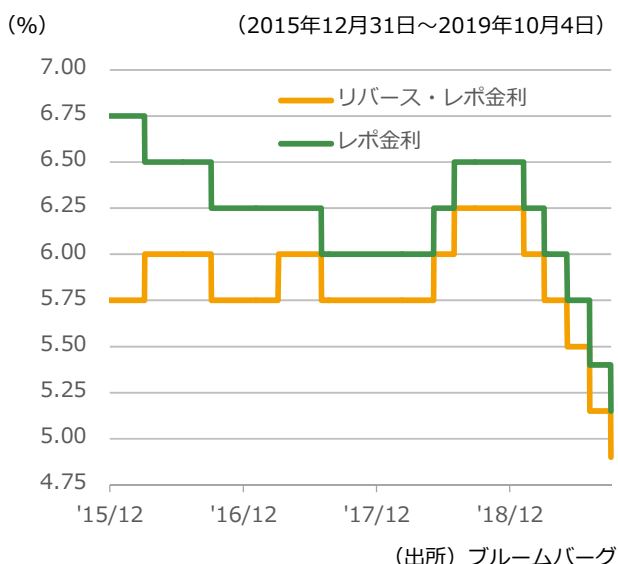
RBIは金融緩和姿勢を維持

2019年10月4日（現地）に開催された金融政策委員会において、RBI（インド準備銀行）は政策金利であるレポ金利を0.25%ポイント引き下げ、5.15%にすることを決定しました。また、リバース・レポ金利も0.25%ポイント引き下げ、4.90%にしました。利下げはおおむね市場予想通りでした。

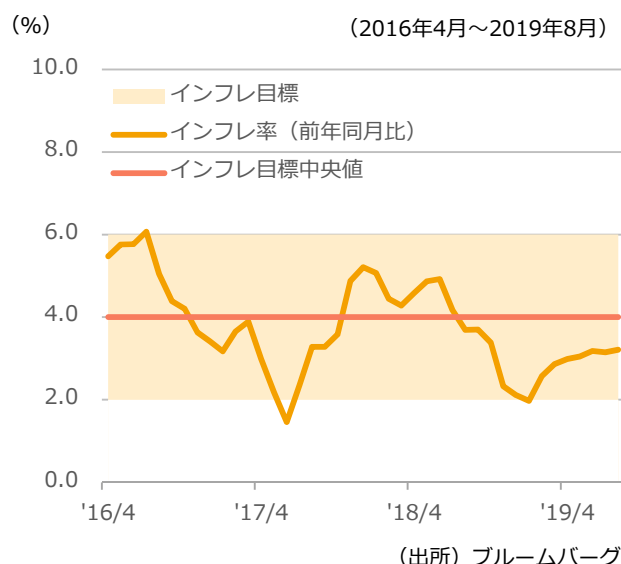
RBIは声明文の中で、8月の会合以降、通商面での緊張や地政学的な不透明感が一層高まったことや、先進国と新興国ともに経済活動が減速していることに言及しました。また、インドの2019年4月から2020年3月にかけての経済成長率見通しを、内需の弱さや輸出見通しの悪化などを背景として、8月時点の6.9%から6.1%に下方修正しました。こうした環境がRBIの5回連続となる利下げの背景となった一方で、2月以降の金融緩和の効果が実体経済に徐々にあらわれてくることに期待感を示しました。

先行きについて、RBIは緩和的な金融政策スタンスを維持しました。今回で5会合連続となる利下げの効果を見極めながらの金融政策運営になることが予想されるものの、インドのインフレ率がRBIのインフレ目標の中心値である+4%を依然として下回っていることや、世界的に景気減速への懸念が高まっていることを考えると、RBIは当面緩和的な金融政策スタンスを維持することが予想され、追加利下げに踏み切ることも考えられます。世界経済の減速懸念や米中貿易交渉の不透明感が円高圧力につながる可能性には注意を要する一方で、緩和的な金融政策の継続がインド経済の下支えになるとともに、インド株式・債券投資の追い風になることが期待されます。

政策金利の推移



インフレ率の推移



当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和投資信託が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡す「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。